

幼稚園の「遊び」は、まだ「教科名がない学び」

遊びを通した幼児期の学びから、小学校1年生の自覚的な学びへ

第二集

— 一つの遊びの中に、いくつもの学びがある —

荒尾第一幼稚園 幼小架け橋プログラム

写真付き 事例集

この資料で大切にしたいこと

本資料は、荒尾第一幼稚園の年長組のドキュメンテーションをもとに、幼児期の遊びや生活の中に、小学校1年生で育てていく資質・能力の「基礎」となるような経験が、どのように現れているのかを考える事例集の第2集です。

幼児期の「基礎」は、小学校の学習内容を簡単にしたものでも、先取りしたものでもないと考えています。

子どもたちは、遊びや生活の中で「こうしたい」「どうしたらできるだろう」という思いをもち、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりしながら、そこで得たことを使って、さらに考え、試し、工夫し、表現していきます。

こうした子どもの姿をドキュメンテーションにまとめ、改めて振り返ってみると、一つの遊びの中にも、数量を使うこと、言葉で伝えること、身体を動かすこと、自然や材料の性質に気付くこと、友達と相談することなど、後にさまざまな教科等の学びへとつながっていくような経験が、まだ分かれることなく重なり合っていることに気付かされます。

この事例集では、「幼稚園のこの遊び＝小学校のこの単元」と一対一で対応させるのではなく、

「この授業につながるまでに、幼児期にはどのような経験をしてきたのだろう」

「幼児期のこのような経験は、小学校でどのような学びへつながっていくのだろう」

と、幼稚園と小学校それぞれの実践を持ち寄りながら考えるための、一つの手掛かりになればと思い示してみました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」も共通言語の一つとしながら、一人の子どもの学びを幼稚園と小学校の双方から見つめていく。この事例集が、幼稚園と小学校それぞれの実践を持ち寄りながら、一緒に考えていくための手掛かりになればと願っています。

1. 「受付」 — 緊張感を楽しむ遊びと「文字への憧れ」

「やりたーい」 — 一年長組2023/9/27



子どもの姿

運動会で使う大きな文字を、遊びの時間に立ち寄って書けるよう、保育者が「受付」をつくりました。子どもは名前を告げ、名簿で確認してもらおうと、お手本と棒を受け取り、地面で気の済むまで文字を練習します。その後、壊れたほうきで作った大きな筆を使い、墨で大きな紙に文字を書きます。少し緊張しながらも、「やってみたい」が勝るようです。

人が増えると整理番号が渡され、「○番の～ちゃん」と呼ばれるまで順番を待ちます。そのうち、書き終えた子どもが自分から受付のスタッフになり、今度は自分が経験したやり取りを再現して、受付を動かす側へと変わっていきました。

幼児期に育っている「基礎」

文字の形を捉え、見本を見ながら繰り返し試すこと／身体全体を使って大きな文字を書くこと／整理番号を通して、数字を順番を表すものとして使うこと／名前・名簿・整理番号など、文字や数字が生活の中で果たす役割への気付き／順番を待つこと／経験した仕組みを理解し、自ら役割を担おうとすること

小学校1年生でつながる学び

国語：文字を読んだり書いたりし、目的をもって使うこと。

算数：数を順序や位置を表すものとして捉え、生活の中で用いること

生活科：身近な人や社会との関わりに関心を持ち、自分とのつながりに気付くこと

特別活動：集団の中で役割を持ち、友達と関わりながら活動すること

架け橋として見たいこと

文字を書く、数字を読む、順番を待つ、役割を担うといった経験が、それぞれ別々にあるのではなく、「受付」という少し緊張感のある場を楽しむ一つの経験の中で重なっています。文字や数字も、覚えるためではなく、その場に参加し、人とやり取りするために必要なものとして使われています。さらに、経験した子どもがスタッフ側に回る姿からは、社会の仕組みを経験するだけでなく、自らその一員となって場を動かしていく姿も見えてきます。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

社会生活との関わり／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

2. 見る方向を変えてみる

同じ物でも、見る場所が変われば形が変わる (2023年11月7日)



子どもの姿

幼稚園にあるものを集め、○・△・□に分類しました。ところが、よく見てみると「これ△かな?」「□かな?」と迷い始めます。

そんな中、A君がガムテープの芯を見て、「上から見ると○だけど、こっちから見ると長四角」と発見。それを聞いた子ども達は「ほんとだ~!!」と驚いた様子。

それをきっかけに、「これは横から見たら△」「ここは□」と、子どもたちは物を見る方向を変えながら、同じものの中に違う形を見つけ始めました。

幼児期に育っている「基礎」

身の回りの物の形への関心／位置や方向を変えて見る経験／一つの見方だけで決めず比較する態度

小学校1年生でつながる学び

算数：身の回りにある物の形を観察し、形の特徴を捉えたり、形を構成したりする学びへ。図画工作：形や見え方を感じ取りながら表す活動へ。

架け橋として見たいこと

「丸を知っている」「四角を知っている」だけではない。同じ立体が見る方向によって異なる形として現れる経験が、後の図形を見る目の土台になる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

3. 倒れないためには！

「軽い方がいい」という考えが、試す中で変わっていく（年長）2024.1.26



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

子どもの姿

作ったペンギンが倒れてしまう。何度も倒れるペンギンを立たせるため、幼稚園にある「倒れないもの」を探して観察しました。ボンドの容器を見つけ、立たせた後、ひっくり返すと倒れます。

S「こっちは倒れた～」

保「なんで倒れたんだろうね？」

A「重いからじゃない？」

保「じゃ、どうすれば倒れない？」

S「軽くすればいいんだ」

最初は「軽くする」と考えましたが、ペンギンの大きさは変えられません。そこでさらに考える中で、逆に「重くしたらいいのかも」というアイデアが生まれました。重いものを探して石を詰めてみると、支えがなくてもペンギンが立ちました。

幼児期に育っている「基礎」

予想する／比較する／結果から考えを修正する／重さと安定の関係性を身体的・具体的に経験する

小学校1年生でつながる学び

算数：量の大きさを比べる経験へ。生活科：身近な物を使って試したり工夫したりする活動へ。図画工作：表したいものに合わせて材料やつくり方を工夫する活動へ。

架け橋として見たいこと

大切なのは「重心」という言葉を知ることではない。「こうすれば立つはず」という考えが、実物を比べ、試した結果によって変わる経験そのものが、後の学びの基礎になる。

4. 虫除けスプレーできるかな？

身近な植物を、「使えるかもしれない」と試してみる 年長組2022年9月



虫除けスプレーできるかな？

以前、畑探検をした時に「これは蚊が嫌いな匂いなんだよ」と教えてもらったことを
とってもよく覚えていて、蚊連草を見る度に「虫除けリングの匂い〜」と匂いを嗅いでいた子どもたち。

今日はひよこ組のお友達にそういう草があることを教えてあげるために、一緒に嗅ぎに行きました。
するとそこで、「これで虫除けスプレーできるんじゃないかな？」と閃いた様子。
「どうやって？」と聞くと「これ（葉っぱ）を潰す!」と言い、「実験してみよう」とお部屋に戻りました。

いろんな子どもたちが集まってきて潰し始めたので、「これ潰したらどうする？」と
聞いてみると「スプレーに入れるよ!」と子どもたち。

スプレーの容器を渡すと、「つまるから葉っぱは出した方がいいよ」

「藍の時みたいに葉っぱが見えないくらい潰したほうがよさそう」

など、子どもたちで話し合いながら、自分達なりのスプレーが出来ました!

「お外に出るときにみんなスプレーして行ったら成功かわかるよ」との声もあったので
また月曜日に実験してみようねと話しています♪

保育者に聞くだけでなく、みんなで解決してみようとする姿がいいなと思います!

さくら組（年長）9月9日



「何枚ぐらい持っていく?」



みんなで真剣にすりつぶし中



こぼさないように…



これなら蚊来ないかも!



みんなの手にかけてみよう♪

子どもの姿

蚊を避けるために、香りのある蚊連草を使って虫除けスプレーができないか試した。葉をつぶす、水に入れる、スプレー容器に入れるなど、目的に近づくために方法を変えながら試していく。思った通りにならないことも、次の方法を考える材料になっていく。

幼児期に育っている「基礎」

植物の特徴への気付き／目的に応じて材料を扱う／予想して試す／うまくいかなかった結果から方法を変える

小学校1年生でつながる学び

生活科：身近な自然に関わり、その特徴や変化に気付き、遊びや生活を工夫する学びへ。国語：経験したことや気付いたことを伝える活動へ。

架け橋として見たいこと

自然を「名前を覚える対象」としてだけ見ていない。匂い、手触り、変化などに身体で関わりながら、「これは使えるだろうか」と自然に働きかける経験がある。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
自然との関わり・生命尊重／思考力の芽生え

5. 羽化！ツマグロヒョウモン

ずっと見てきたから、変化が「出来事」になる

ちょうちょになってたよ!!

さくら組（年長）6月2日



今日は朝からぶら下がっていたイモムシがいたので、
さなぎになるところを通常の動画でも撮っておこう!と思い、幼稚園でも
ずっと撮っていることにしました。

すると活動が終わってお部屋にも戻った子が急いでお遊戯室に戻ってきて
「ちょうちょになってた!サナギがちょうちょになってたよ!!」と教えてくれました。
今まで蝶になるのは朝方や日が落ちてからだと思っていたのでみんなでびっくり。
「1回見に行こう!」とみんなで見に行きました。

子どもたちも「ビデオで撮れてるかな?早くテレビで見たい〜」とワクワクしている様子。

蝶をずっとこのままカゴに入れておくのはかわいそうだということになり
今日の記録の絵だけは見ながら描いて、すぐに逃してあげることにしました。

外に出てからもすぐには飛び立たないので、
「もっと違う場所に移動させてあげる?」

「みんなが囲んでたら飛びにくいんだよ。少し離れよう」

「かわいそうだから絶対に触ったらダメだよ」

など、蝶のことを思いやりながら逃してあげました。

お弁当の後に子どもたちが手に乗せると、門の方から元気に飛んで行きました♪

寂しいような嬉しいような、いろんな気持ちを感じている子どもたちでした!



どこに乗せたら
飛びやすい?



ちょうちょ
ばいばい!!

子どもの姿

ツマグロヒョウモンを幼虫の頃から身近に置き、観察や記録を続けてきた。サナギの動きなどに不思議を感じ、変化を追う。そして羽化した蝶を見届け、最後には外へ送り出す。単発の「蝶を見た」ではなく、時間をかけて生命の変化に付き合ってきた経験である。

幼児期に育っている「基礎」

継続して観察する／小さな変化に気付く／不思議をもつ／生命に親しみ、大切にしようとする気持ち

小学校1年生でつながる学び

生活科：動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの変化や成長に気づき、親しみをもって大切にする学びへ。

架け橋として見たいこと

「幼虫→サナギ→蝶」という知識だけではなく、毎日見てきた時間があるからこそ、羽化が驚きになり、生命への思いが生まれる。その具体的な経験を小学校へつなげたい。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

自然との関わり・生命尊重／豊かな感性と表現

6. みんなが上手になってきた!!

みんなで遊ぶ楽しさの実感・充実感 11/8



みんなが上手になってきた!!

毎日ドッチボールを楽しんでいる子どもたち。
少しずつ自分たちで遊びの場を作ろうと動き出したり、
保育者がいなくても遊び始める準備をしておこうとする姿が出てきました。

また、全員が楽しく参加できるようにしたいと1度子どもたちに相談すると
そのことも意識して、全員がボールに触れることができるように譲り合ったり
「まだやったことないから変わってあげてもいいんじゃない？」と気づいたことを
話してくれる様子も出てきました。

以前のドッチボールよりもさらに楽しくなっていることは子どもたち自身も
感じている様子で、「なんかみんなが上手になってきたね」「楽しいね」と
表現しています。

自分たちで遊びを進めていく楽しさや充実感も感じているのかなと思います。
みんなで遊んだらもっと楽しいということも話していて、
「明日もまたしようね」とお弁当に戻る姿がとってもいいなと思います!

さくら組（年長）11月8日



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
協同性／道徳性・規範意識の芽生え

子どもの姿

「みんなが楽しく参加するに
は？」と一度話し合うと、全員が
ボールに触れられるよう譲り合っ
たり、「まだやったことないから
変わってあげてもいいんじゃない
？」と声をかけたりする姿も。
子どもたち自身も、「なんかみん
なが上手になってきたね」「楽し
いね」と変化を感じています。
「みんなで遊んだらもっと楽し
い」と話し、「明日もまたしよう
ね」と遊びを終える姿が見られま
した。

幼児期に育っている「基礎」

ルールを守るだけでなく、みんなが楽
しめるよう調整する／仲間の状況に気
付く／自分たちで遊びを運営する

小学校1年生でつながる学び

体育：簡単な規則を工夫しながらゲー
ムを楽しみ、誰とでも仲よく運動する
学びへ。特別活動：よりよい集団生活
のために話し合い、役割を果たす経験
へ。

架け橋として見たいこと

幼児期の規範意識は、「決められたル
ールを守る」だけではない。遊びを続
けたいからこそ、仲間の参加の仕方や
ルールを自分たちで調整する。その経
験が集団で学ぶ基礎になる。

7. 年長組の話し合い 勝つための作戦会議 年長(9月10月)

共通の目的があるから、考えの違いを言葉にする 運動会に向けた活動



子どもの姿

運動会箱積み競技では、ただ高く積むだけでなく、どうすれば安定するか、どの箱をどこに置くか、誰が何をするかを仲間と考える必要がある。自分の考えを言うだけでは進まず、相手の考えを聞き、共通の目的に向けて方法を調整していく。話し合うこと自体が目的なのではなく、「一緒にうまくやりたい」という必要から対話が生きている。

【子どもたちの作戦】

「箱を重ねる時に倒れないように下は押さえよう」

「まず何個か積んで、その後に4つくらい一緒に積もう!」

幼児期に育っている「基礎」

自分の考えを伝える／友達のことを聞く／違いを調整する／共通の目的に向けて方法を選ぶ

小学校1年生でつながる学び

国語：互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ活動へ。特別活動：学級生活をよりよくするために話し合い、合意形成を図る学びの基礎へ。体育：ゲームの行い方を知り、簡単な規則や方法を工夫する学びへ。

架け橋として見たいこと

自分一人では達成できない共通の課題があることで、「伝えなければならない」「聞かなければならない」が生まれる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
協同性／言葉による伝え合い／思考力の芽生え

8. 全園児リレー

数字が、仲間を並べるための情報になる 年長組 9月



子どもの姿

遊びの中でリレーをするときには、チームの人数を同じにしようと数を意識したり、走る順番を作戦として考えたりする姿が日常的に見られます。

運動会の全園児リレーでは、年長児がチームをまとめる役割を担います。ゼッケンの数字を見ながら、「誰がどのチームか」「どの順番に並ぶか」を確かめ、年下の子どもたちを並べていきます。

ここでは数字が、ただ読むものではなく、仲間を分けたり、順番を整えたり、みんなで活動を進めたりするために必要な情報として使われています。

幼児期に育っている「基礎」

数字や標識を生活に必要な情報として使う／順番や列の意味を理解する／年下の子を含む集団の中で役割を担う

小学校1年生でつながる学び

算数：数を順序や位置を表すものとして捉える学びへ。体育：順番や簡単なきまりを守って運動する活動へ。特別活動：集団の中で役割を担い、協力して活動する学びへ。

架け橋として見たいこと

幼児期には、遊びや生活を進める必要の中で、数字が意味のある情報として働いている。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／社会生活との関わり

8事例を並べて見えてくること

事例	幼児期の経験	主に見える基礎	小学校でつながる学び
受付	文字や数字を使って場に参加する	文字・数・順序・役割	国語／算数／生活／特別活動
見る方向を変えてみる	物を違う方向から見る	形・空間・多面的な見方	算数／図工
倒れないためには！	予想し、比べ、考えを変える	比較・量・仮説修正	算数／生活／図工
虫除けスプレー	植物を目的に応じて試す	自然・試行錯誤	生活／国語
ツマグロヒョウモン	生命の変化を継続して見る	観察・生命尊重	生活
ドッジボール	みんなが楽しめるよう調整	規範・自治・協働	体育／特別活動
箱積みのお話し合い	共通目的に向けて考えを調整	対話・合意・協働	国語／体育／特別活動
全園児リレー	数字を使って集団を動かす	数・順序・役割	算数／体育／特別活動

一つの遊びに重なる学び

幼児期の子どもは、「今は算数」「ここから国語」と分けて経験しているわけではありません。必要に迫られて数を使い、文字を使い、自然を見つめ、材料を比べ、仲間と相談しています。小学校で教科として整理されていく学びの基礎が、幼児期には一つの生活や遊びの中に重なって存在しています。

資料について

幼稚園側の事例は、荒尾第一幼稚園のホームページデータおよび保存されている年長組ドキュメンテーションをもとに整理した。小学校との接続は、文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』および各教科等の解説を参照し、単元との一対一対応ではなく「基礎となる経験」という観点から記述した。

2026.9.6発行

荒尾第一幼稚園 熊本県荒尾市川登1823番地15 ホームページ <http://kazenokao.net/>